拡げよう！脱原発の輪

NO NUKES! human chains vol.07

NO NUKES! human chains vol.vol.06のゲスト、後藤正文さんからのご紹介です。

NONUKES ENERGY AUTONOMY

賛成、反対、保守、リベラル、革新の垣根を越えたビッグ・ピクチャー

ゲスト **細美武士** ミュージシャン／the HIATUS/MONOEYES/ELLEGARDEN

聞き手：Misao Redwolf（首都圏反原発連合）

インプリントされた核戦争の脅威

Misao 細美さんが原発問題に気づいた経緯をうかがいたいと思います。

細美 自分は1973年生まれで、東西冷戦まっただ中のころに中学生だったんですが、核戦争の脅威についてはすごく考えたし、核戦争が人類にとってのカタストロフだという強烈な認識がありました。当時は漫画やアニメでも核戦争後を描いたものが多くて、『北斗の拳』なども核戦争後の荒廃した世界が舞台でした。夜中に突然目を覚ますと、夜空にすごい大きなオレンジ色のキノコ雲が上がっているところを想像して怖くなるというような気持ちを持った世代だと思うんですが、それと原子力発電は、直接的にはまったく結びついてなかったですね。

Misao 3.11福島原発事故が起こり、どのように意識が変わったのでしょうか？

細美 被災地支援などで福島によく行くようになったり、再生可能エネルギーのシンポジウムに出席したり、科学者や政治家や活動家の方たちとお会いしていく中で、原発についてより深く考えるようになっていきました。自分はそもそも、原子力発電にまつわる歴史や経済、環境のことなど、さまざまな側面をひとまとめに論じられるような知識がなかったので、まずはそういったことをもっと知りたいと思いました。

それで、バンド仲間がやってる店で会を作って、みんなで軽くお酒を飲みながら俺がプレゼンをすることを決めて、原発問題のリサーチをしたんです。1880年代に最初にできた電力会社「東京電灯」が元となり、サンフランシスコ条約の発効とともに現在の9電力会社にどのように分離していったのか。あるいは、戦後の旧財閥解体とか発電と送電がなぜ一つの会社になっているのか、なぜ電力に統括原価方式が採用されているのかなど、そういうところからはじめました。日本の電力のことを知らなければ、原発についても論じられないと思ったんですね。その当時しばらく原発のことを調べたのは、自分の原発観にとって一番大きな変化でしたね。

政治家の権力拡大とレントシーキングのサークル

細美 原発って電力だけの問題ではないじゃないですか。マンハッタン計画でシカゴ大学で作られた世界初の原子炉シカゴ・パイル1号は、発電目的ではなくて、核兵器を作るための炉だったわけですよね。プルトニウムを分離する過程で大量の熱が発生するので、開発した技術を発電用に民生化しようとしたアメリカの思惑があった。アイゼンハワーがアトムズフォーピース演説をしてIAEAが作られていく中で、日本ではまだ当選5期目だった中曽根さんが正力松太郎と組んで、政治とメディア主導でアメリカの原子力政策を日本国内に広めていったと認識しています。

軍事産業の民生転用というのかな、政治家の権力拡大とレントシーキングのサークルができあがって、それぞれが自分にとってプラスになると思ったことだけで動かしてきた。確かに原子力発電、特に核燃料サイクルが本当にこの国のエネルギー政策を救う夢の技術だと純然と信じて、熱意を燃やした技術者もたくさんいたと思います。特にオイルショックを経験した世代ならなおさらだと思います。

ただ事の本質が原発村のレントシーキングなので、当時の原子力推進政策が間違っていたことを中曽根さん本人が認めていようが、再生可能エネルギーの方が汚染も少なく、持続性の高いものであろうが、そもそもクリーンかクリーンじゃないかでやっていない原子力村の人たちに通じるはずもなく、そんな話をしてもしょうがないじゃないかという感覚が、俺はすごくあるんですよね。原発輸出が暗礁に乗り上げ、核燃料サイクルはどうやら実現不可能だという現状を加えて考えると、原子力発電に未来はもうないんだと思います。

楽しいチャリティーを

Misao 細美さんは「東北ライブハウス大作戦」など、被災地支援のチャリティーに取り組んでおられますね。

細美 ビッグピクチャーでものごとを見るには、賛成、反対、保守、リベラル、革新の垣根を越えた感覚を持ったものづくりみたいなものが進んで行けばいいのになという気持ちがあります。山口県の原発反対の集会に行ったときも、自分のコメントには賛成派の人も全然気にせず遊びに来てほしいと書いたんです。そこでゲバみたいになったら最悪ですが、自分はミュージシャンなので、歌を聴きに来てくれるだけでもいいと思うんですよね。そういうふうにチャリティーを作って行けたらいいなと思います。

原発に対して自分の立場は反対です。だからと言って賛成派の人にまるで逮捕状のように、こうこうこうだから原発はない方がいいんだ、と突きつけるだけじゃ何も変わらない。自分が間違っているかも知れないという可能性は、お互い常にゼロにはならないですから。それから、ライブを頼まれたりして反原発の集会やチャリティーイベントに行きましたが、すごく専門知識を持ったキャリアのある人たちが、ものすごく長くて眠くなるような話をしていて、これではいくら話をしても多くの人には伝わらないと思ったんですよね。自分たちの活動をこんなにがんばっているんですよ、と聞かされても関係者以外の人はなんとも思わないと思うんです。

だから、まずは楽しかった、行ってよかった、面白かったなというチャリティーを作って、その中で個々、自分たちが持って帰りたいものを持って帰れる。誰かの熱意を目の当たりにするだけでもいいかもしれないし、知識を持ち帰ってもらうのでもいいし、願わくば対話で解決ができなくなる前に、意見の異なる人同士がどのようにしてお互いの考えや意見を活かし合うことができるのか、そのヒントを探せるようなことをしたいと思いました。震災後にみんなチャリティー、チャリティーと言い出したときに、チャリティーってどう意味か俺は知らないなと思ったので、チャリティー学の本を買いに新宿の紀伊國屋に行きました。そのとき買えたもので洋書が4冊、日本語で書かれたものは1冊でした。

学術論文もたくさん出ているんですが、自分が参考にしたのは、チャリティーの作り方には２種類あって、アフリカの飢饉を例にとると、一つは実際に栄養危機に直面し、痩せ細っていて、あとどのくらい生きられるかわからない子供の現状の写真を見せるようなもの。もう一つは家族で参加できるピクニックのようなものでとても楽しかった、ただそこで得た情報は家に帰ってもっと調べてみたくなるようなものだった、という作り方。そのどちらも効果があるという論文を読んだときに、まずは楽しい方を作ってみたいなと思ったんですね。まあ俺が真面目な話を聞いてるとすぐ眠くなっちゃう性分だってだけかも知れませんが。

全部自分で決める

Misao 最後に、細美さんが意識的に大事にしていることはなんでしょうか？

細美 大事にしているというよりは、昔からそうしないと納得がいかなかったことがあります。それは全部自分で決めたいということです。失敗するにしても自分で決めて失敗したいし、人にこうしなさいと言われて行動するのでも、まわりの人がこうしているからでもなくて、なにをするにしても自分で決めたいんですよね。それは、すごく格好つけていえば、人のせいにしたくないということで。

きれいに言えばそうだし、もう少し正確に言えば、自分がやりたいようにやりたいんですよね。当たり前だけど、自分の行く道は自分で選んだ方が楽しいじゃないですか。もちろん自分はそもそも人の言うことが聞けないということもあるんですが、そのやり方が間違っていると思ったことはありません。それを自分の人生を使って、最後まで証明するような生き方ができたらいいですよね。

シカゴ大学でシカゴ・パイル1号という世界初の原子炉を作ったイタリア人の科学者エンリコ・フェルミは、原子炉が完成した日に、「今日という日は暗黒の日として人類の歴史に刻まれるだろう」という言葉を残したそうです。エンリコ・フェルミの言った言葉が本当にならないように、いろいろな闘い方がみんなにあると思うんですよね。もちろん自分の正義を疑うことなく、闘い続ける人もいないといけないと思います。かといえば、「まぁまぁ」とそれを横から見ながら色んな人の話を聞く、その人だって実は自分の中に強い信念をもっていて、「本当に変えたいなら闘い方を選ばない」と思っていたりする。諦めちゃうのはイヤだなと思っているので。そんな感じです。

the HIATUS 5th Album Hands Of Gravity

2016年7月6日（水）発売　品番：UPCH-20422　価格：2400円（+税）

収録内容

01. Geranium
02. Clone
03. Drifting Story
04. Bonfire
05. Let Me Fall
06. Radio
07. Catch You Later
08. Secret
09. Tree Rings
10. Sunburn

the HIATUS 公式 HP　thehiatus.com/

インタビュー全文はこちらでご覧いただけます
http://coalitionagainstnukes.jp/?p=12406

次回予告　NO NUKES! human chains vol.08（2019年6月号掲載）
このインタビュー・シリーズでは、ゲストのかたに次のゲストをご紹介いただきます。細美武士さんからは、ミュージシャンのTOSHI-LOWさん（BRAHMAN / OAU）をご紹介いただきました。

Walk and Talk it 「生まれ変わる宣言」は何度でも —— 著作『0から掴んだ男たち−平成起業家列伝』

大下英治『０から掴んだ男たち』（徳間書店）には「ミサワホーム」初代社長三澤千代治の以下の逸話が書かれている。1975年初頭まで「ミサワホーム」は質よりも量、アフターサービス無視で住宅を供給してきたが、質を求められる時代に乗り遅れ業績は落ちていた。三澤が「量から質へ」を訴えても急な転換に社員はついてこられない。そんなある日突然三澤は幹部会で「前の社長は死にました。私は後任の社長です」と宣言し、会社が生まれ変わらなければいけないことを、周囲を唖然とさせながらも印象付けたというのだ。

昨年12月18日、「もんじゅ」後継機に関し経済省は実用化を今世紀後半とする工程表をまとめた。「今世紀後半」にもなって高速増殖炉を開発、という思考は日本原子力産業協会の会員企業でさえ8割が「2050年の基幹電源は再生エネルギー」と考えている現状からは噴飯物だが、「原発は正しい」という前提を捨てられない官僚は確実にいる。トップが「死亡宣言」を出せないならその座から降りていただく、そして次に誰がこようと、監視し続けるしかない。民主主義を本気でやるのは長く疲れるが、たぶん今の私たちは、底を見ている。幸運にも生きているのだから、「生まれ変わる宣言」は、何度でも出せるはずだ。(TH)

RECORD THE POWER OF THE PEOPLE!

2012−2013年 『経団連会館前抗議』 主催：首都圏反原発連合

2012年夏にピークを迎えた『再稼働反対！首相官邸前抗議』と並行して、9月25日から翌年3月19日までの間に、8回の経団連会館前での抗議を実施しました。経団連、経済同友会、日本商工会議所が、当時の民主党政権が閣議決定しようとしていた、「2030年代原発ゼロ」方針に反対の立場を示したからです。

「原発をやめると経済が停滞する」という経団連の主張に対し、反原連では「原発を続けるほうが経済にとって悪影響なのではないか」と抗議しました。東芝の経営破綻や、建設費などの高騰による安倍政権の原発輸出計画の頓挫。2019年現在、経団連の主張は誤りであることが証明されています。

編集後記

世界的な脱原発・再エネの流れの中、日本でも企業や自治体がRE100など再エネ推進に取り組み、社会的な動きになっています。原発輸出計画の頓挫は原発産業の終焉を物語っており、再稼働も進まず、実質的には脱原発に向かっていますが、安倍政権は未だに核燃料サイクル政策という蜃気楼にしがみつき、政策を変えようとしません。

『再稼働反対！首相官邸前抗議』（金曜官邸前抗議）は、開始から8年目に突入します。「原発政策は行き詰っているからほうっておいても原発はなくなるだろう」。いやいや、それでもやりますってば。政策が八方塞がりとなり追い詰められている今こそ、あと一押しの大きな抗議が必要です。金曜官邸前抗議に集まり、安倍政権に対し大きな民意を可視化しましょう！

NO NUKES PRESS は無料で発送いたします。多くの人にこの情報を伝えるために、フライヤーの配布のご協力をお願いいたします！ 申し込みは WEB から http://coalitionagainstnukes.jp/?p=3505